

中部地区中学校教育振興会及び中部地区小学校教育研究会夏季合同研修会報告

- 1 研修実施機関 倉吉市中学校教育振興会
- 2 研修日時 平成27年8月21日(金)
- 3 研修場所 中部総合事務所 講堂
- 4 アドバイザー 一般財団法人応用教育研究所 堀口 哲男 研究部長
- 5 研修テーマ 「校内研究へのQ-U活用について」
- 6 研修内容

(1) 講演「校内研究へのQ-U活用について ～学力テストとQ-Uの相関関係～」

中部地区すべての学校で実施されているQ-Uを校内研究や授業改善に生かすために、Q-U結果の活用についての講演を聞いた。

■授業改善への活用①「学習集団の型」を活用する

日本の授業は学級のすべての児童生徒が参加する集団活動であるので、学級集団の状態が授業の内容に大きく影響する。学習は学級集団を単位として動くため、学級満足度尺度結果の型から基本的な対応への示唆が得られる。

■授業改善への活用②「学力とのクロス集計表」を活用する

帳票「⑦学力とのクロス集計表」は、標準学力検査「NRT」「CRT」とQ-Uの結果を一枚の表にクロス集計し、児童生徒の学習面と生活面の支援ニーズを総合的に把握できる資料で、学習面(3段階)×生活面(3段階)の組み合わせで捉えている。それぞれの支援レベルは以下の通り。

(標準学力検査の結果より)	一次支援	C-1	B-1	A
	二次支援	E-1	D	B-2
	三次支援	F	E-2	C-2
		三次支援	二次支援	一次支援
生活支援レベル (「Q-U」の学級満足度尺度より)				

一次支援レベル … 担任が行っている一斉指導に自ら参加できる
二次支援レベル … 一斉指導に参加させるには、さりげない配慮と支援が必要
三次支援レベル … 一斉指導に参加させるには、個別の特別な支援が必要、または一斉指導と並行して行うその子独自のプログラムが必要

Q-Uの結果を学力テストの結果とクロス集計することで、学習面における学級集団の状態や課題が明らかになるなど、より詳細で的確な実態把握が可能であることが示された。また、教師の指導についても次のことに活用できることが示された。

- ① 一斉指導における教師側の「指導量」の目安を得る
- ② 指導量の目安から援助体制を検討できる
- ③ 学年や学校による支援を必要とする学級・児童生徒の共通理解ができる

特に③について、「C-1」の児童生徒は、学力はあるが要支援であり、教師の指導の盲点になっていることがあること、「D」の児童生徒は、目立たないが、大勢を動かす鍵になっていることなど、指導をしていくうえでのポイントとなどの説明がなされた。

講演から、Q-U活用についての自校の現在の取組状況を振り返り、2学期以降の活用方法

を検討する機会となった。

(2) グループ協議「授業改善へのQ-U活用について」

グループ協議では、自校の取組を紹介しあったり、2学期以降のQ-U活用についていろいろなアイデアが出されたりするなど、活発な協議がなされた。

7 ま と め

この研修内容を、校内研究に取り入れ、学級づくりや授業づくりにおける課題解決の一助とすることで、児童生徒の学校生活や授業への満足感が高まり、一人一人の学力向上につながることを期待できる。また、全職員で取り組むことで、教員間の連携が強化され、学校全体の教育力の向上につながることを期待できる。